

# 横須賀港港湾環境計画



平成17年3月

横須賀市港湾部

## 〈目 次〉

はじめに	1
1. 横須賀港港湾環境計画の位置づけと策定手順	2
(1) 港湾環境計画の位置づけ	2
(2) 調査・検討の進め方	3
(3) 委員の構成	4
2. 横須賀港沿岸域の環境特性	5
(1) 横須賀港の地勢	5
(2) 環境特性及び課題	5
(3) 地域別の環境特性	16
3. 基本構想	20
(1) 基本構想の検討	20
(2) 横須賀港全体の港湾環境に係わる基本構想	22
(3) 地区別の港湾環境に係わる基本構想	28
4. 行動計画	55
(1) 行動計画の検討	55
(2) 行動計画の検討の流れ	57
(3) 行動指針の評価	58
(4) 先導的取り組みの抽出	66
(5) 行動計画の抽出	70
5. 計画の推進の考え方	88
(1) 計画の期間	88
(2) 横須賀港港湾環境計画の特性、発展性	89
(3) 横須賀港港湾環境計画の構成から見た進行管理	90
(4) 港湾環境計画の目標達成の指標の考え方	91
おわりに	92

### ■参考資料

1. 用語集	資料- 1
2. データ集	資料- 9
3. 横須賀の海の生き物たち	資料-21

## はじめに

横須賀港は、観音崎、猿島をはじめとする海岸や緑に恵まれ、親水性の高い水辺空間を持っており、港湾の発展と自然との共存が可能な臨海部空間を有している。また、天然の良港であることから、古くからわが国の要衝の一つとしての役割を担ってきた。そのため、浦賀、猿島、記念艦三笠など、開国や海軍に関連する歴史的資源が豊富にあり、現在も海上自衛隊や米海軍の施設などが立地し、横須賀特有の景観を形成している。

また、横須賀市は、首都圏に位置する利便性から高密度で多様な土地利用がなされており、重工業や発電所が立地しているとともに、中心市街をはじめとする市街地が沿岸部に立地している。さらに、防衛施設、米海軍の占める海岸線も長い。そのため、沿岸には人工護岸も多く、陸域からの負荷に伴う水質・底質の低下や生物生息環境の劣化が見られ、人々が海にふれられる空間が限られる地域もある。

こうした背景のもと、個性ある地域の発展が求められる時代において、海は、横須賀市の大切な財産であり、海の魅力を一層向上させるとともに、貴重な自然を未来に引き継ぎ、東京湾の環境再生に寄与するため、沿岸域の環境を総合的に考えた施策の構築が求められ、本市の環境施策の方針を定めた横須賀市環境基本計画では、海域環境の環境指標に「横須賀港港湾環境計画の策定と推進」を位置づけている。

一方、国土交通省では、近年の市民の環境に対する関心の高まりから、港湾環境政策の取り組みの一環として「環境と共生する港湾（エコポート）」の形成に向けた施策を総合的に推進することとし、港湾法の改正により法の目的に環境保全への配慮が明記された。横須賀港では、港湾法に基づいて、港湾の利用・開発・保全のあるべき姿を規定する港湾計画が改訂を迎え、横須賀港沿岸域の将来計画を策定した。港湾計画は主要な計画方針として「環境施策の充実と推進」を掲げており、これを実践的に補完する具体的な行動計画を備えた体系として港湾環境計画の策定が求められている。

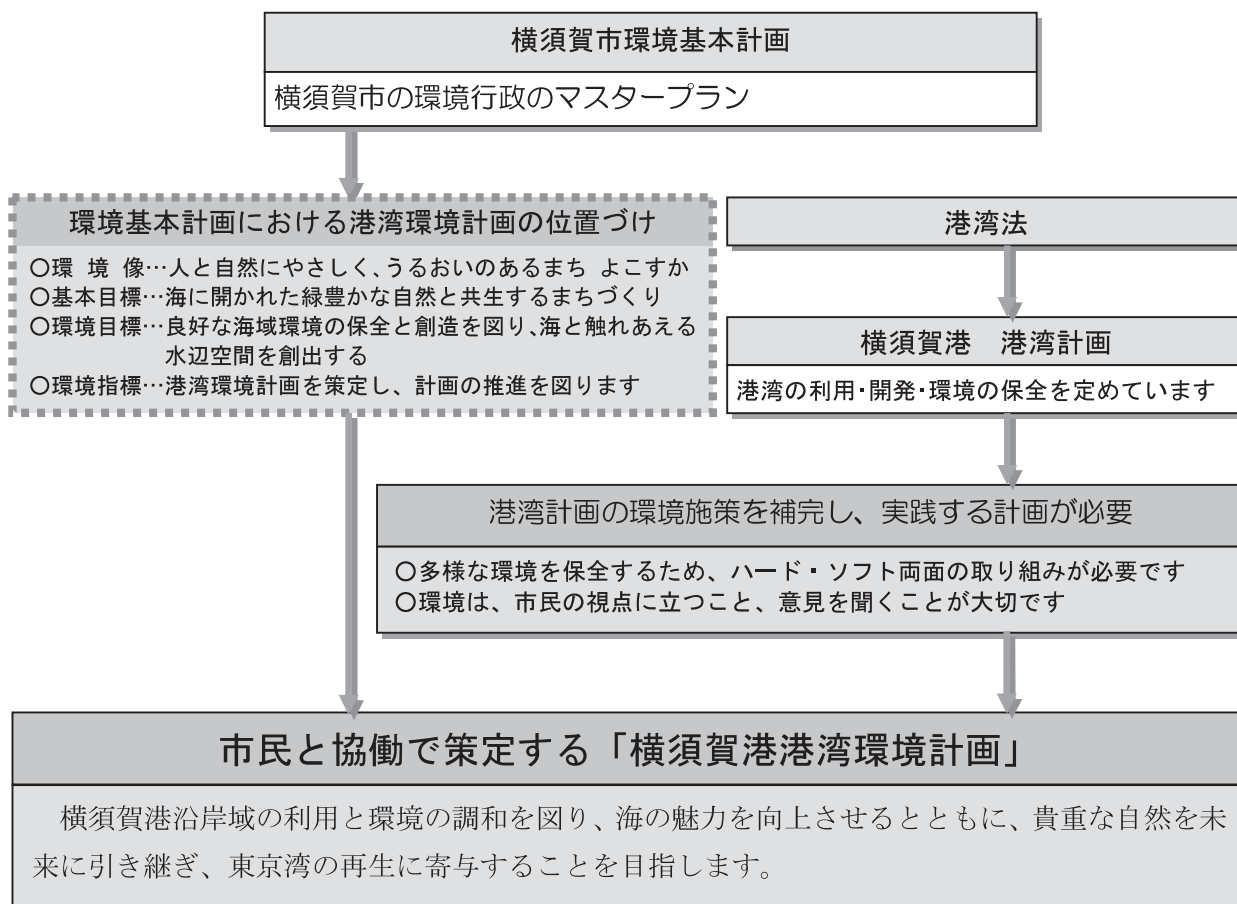
本港湾環境計画書は、これらに基づき、横須賀港沿岸域の環境のあり方と今後の実施に向けた取り組みについて、市民との協働により検討した結果を、とりまとめたものである。

# 1. 横須賀港港湾環境計画の位置づけと策定手順

## (1) 港湾環境計画の位置づけ

前項に述べた港湾計画、横須賀市環境基本計画と、本計画との関係は次のとおりである。

環境は、多様な要素から構成されるため、ハードだけでなく、ソフト施策が必要であり、市民の視点や意見の聴取も不可欠と考えられる。さらに、本計画は理念だけでなく実践を大きな目的としている。

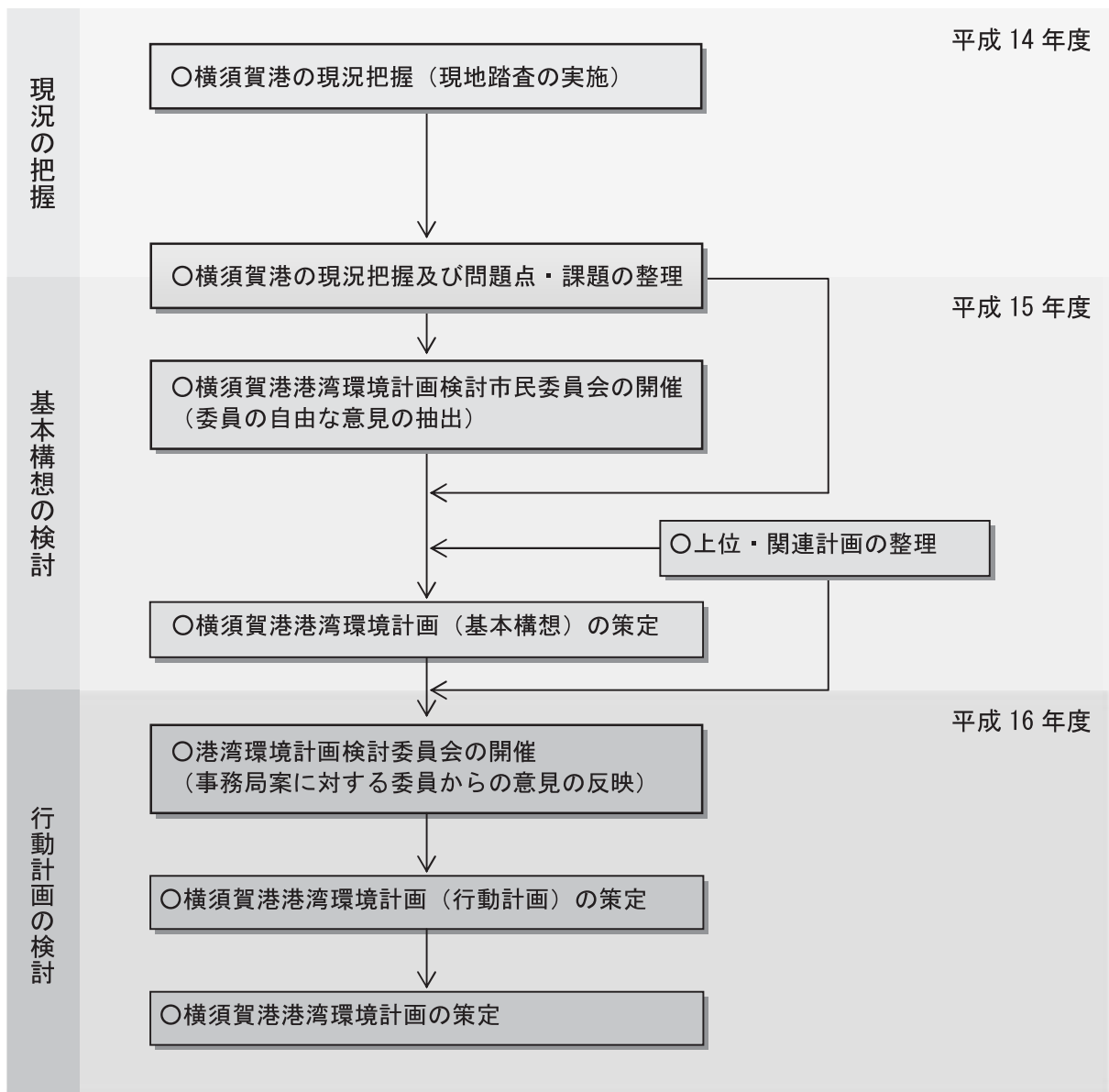


## (2) 調査・検討の進め方

港湾環境計画は、市民の視点、考え方を基本に策定し、市民とともに実践することを目指している。したがって、2ヶ年にわたる基本構想及び行動計画のとりまとめは、市民・学識経験者・海域利用者・NPO代表者を中心とする委員会において検討した。

平成15年度に横須賀港港湾環境計画検討市民委員会を設け、基本理念、基本方針等を盛り込んだ基本構想を立案し、市民委員会の提言としてまとめた。平成16年度は、港湾環境計画検討委員会を設け、基本構想に基づいた実践を目指し、計3回の委員会において行動計画について検討した。

本書は、市民委員会の検討成果を横須賀市港湾部が、横須賀港港湾環境計画として取りまとめ、行政の指針とするものであり、策定フローは以下のとおりである。



### (3) 委員の構成

委員構成は以下のとおりである。

横須賀港港湾環境計画検討市民委員会（敬称略）

	氏名	所属
委員長	近藤 健雄	日本大学工学部海洋建築工学科教授
副委員長	林 公義	横須賀市自然・人文博物館館長
委員	木村 尚	特定非営利活動法人 海辺づくり研究会理事
〃	高橋 弘二	横須賀「水と環境」研究会代表
〃	小菅 健史	社団法人 横須賀青年会議所専務理事
〃	上原 康正	有限会社 マリンポート・コーチヤ常務取締役
〃	飛松 正幸	横須賀市東部漁業協同組合代表幹事
〃	臼井 幸次	横須賀市東部漁業協同組合浦賀久比里支所総代
〃	武井 佳延子	市民（公募による）
〃	原田 憲一	市民（公募による）
〃	八木橋 丈夫	環境部長
〃	田口 永俊	港湾部長

港湾環境計画検討委員会（敬称略）

	氏名	所属
委員長	近藤 健雄	日本大学工学部海洋建築工学科教授
副委員長	林 公義	横須賀市自然・人文博物館館長
委員	庄野 泰子	音環境デザイナー
〃	古川 恵太	国土技術政策総合研究所 海洋環境研究室室長
〃	木村 尚	特定非営利活動法人 海辺づくり研究会理事
〃	高橋 弘二	横須賀「水と環境」研究会代表
〃	飛松 正幸	横須賀市東部漁業協同組合代表幹事
〃	原田 憲一	市民
〃	海野 敦	関東地方整備局港湾空港部海洋環境・海岸課長
〃	八田羽 正夫	環境部副部長
〃	田口 永俊	港湾部長

## 2. 横須賀港沿岸域の環境特性

### (1) 横須賀港の地勢

横須賀市は、神奈川県南東部の三浦半島の中心に位置し、東は東京湾、西は相模湾に面し、南は三浦市、北西から北にかけては葉山町、逗子市、横浜市に接している。平地が少なく標高100～200m内外の起伏の多い丘陵及び山地からなり、上町丘陵、大楠山地及び武山山地が東西に併走し、これらの山地丘陵の間を縫って河川、低地が配列されている。気候は海洋性を有し、平穏良好、温暖である。

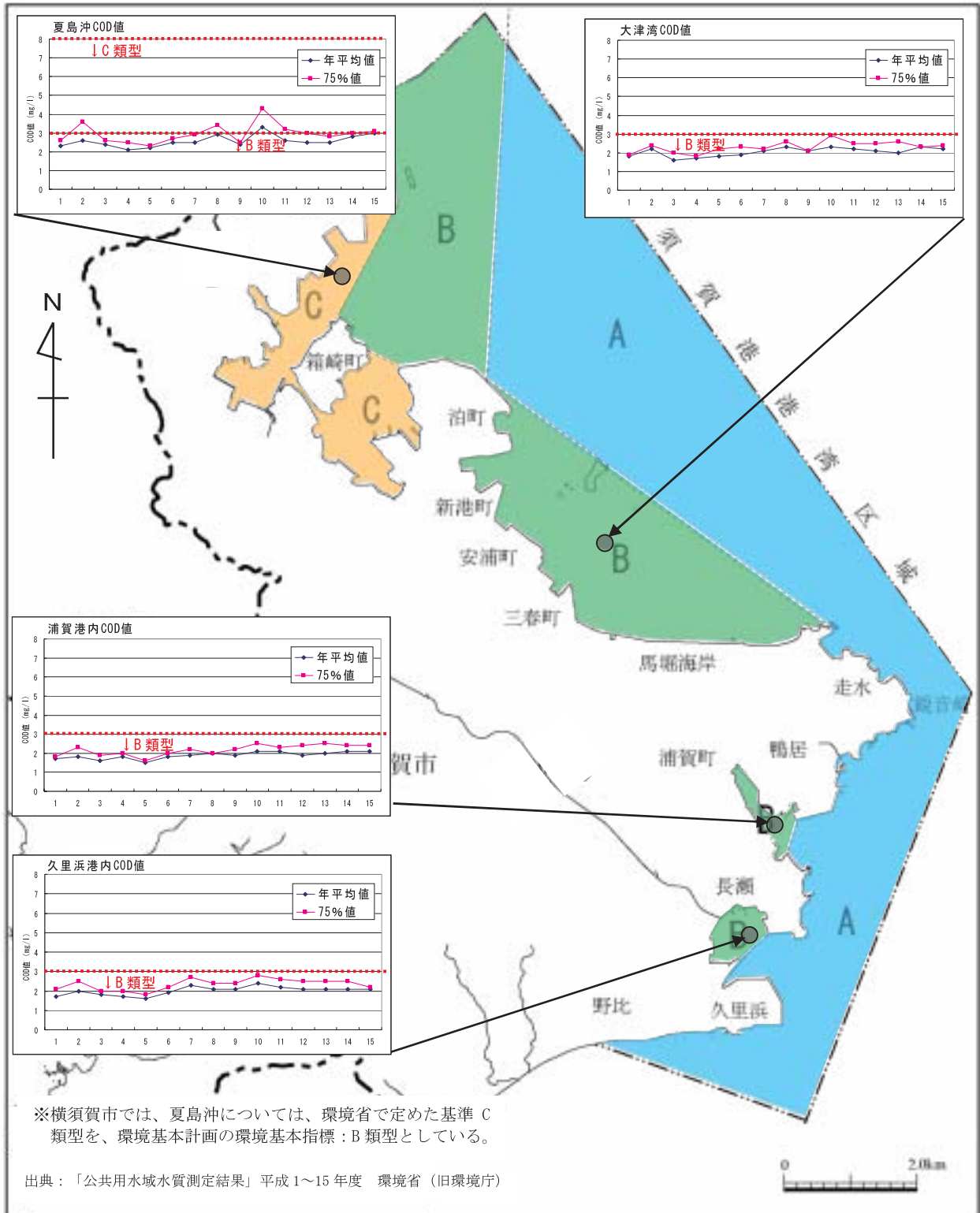
横須賀港は、三浦半島の東岸の東京湾口部に位置し、海を約11km隔てた東には房総半島と対する位置にある。本港は、北は追浜から南は野比に至る13地区から構成され、自動車の輸出等の物流の拠点、造船、火力発電所を擁する産業の拠点、房総半島とを結ぶフェリーによる旅客輸送の拠点など、工業港・商港・漁港といった多様な性格を併せ持っている。また、東京湾内にある他港と比較して自然海岸を多く有している。

### (2) 環境特性及び課題

横須賀港における現況の環境特性を整理するにあたり、既往資料および文献等により情報収集・整理した。得られた横須賀港における環境特性は以下のとおりである。

## ア. 水質

横須賀港周辺において継続的に計測されている公共用水域水質測定結果のうち、有機汚濁の指標となるCODについて以下に示す。横須賀港北部で高く、南部で低い傾向が見られる。なお、夏島沖のCOD値が高い値で推移しているが、B類型に近い値である。東京湾の湾口部に位置することから、海水交換は比較的良好な状況である。



横須賀港における水質環境の概要

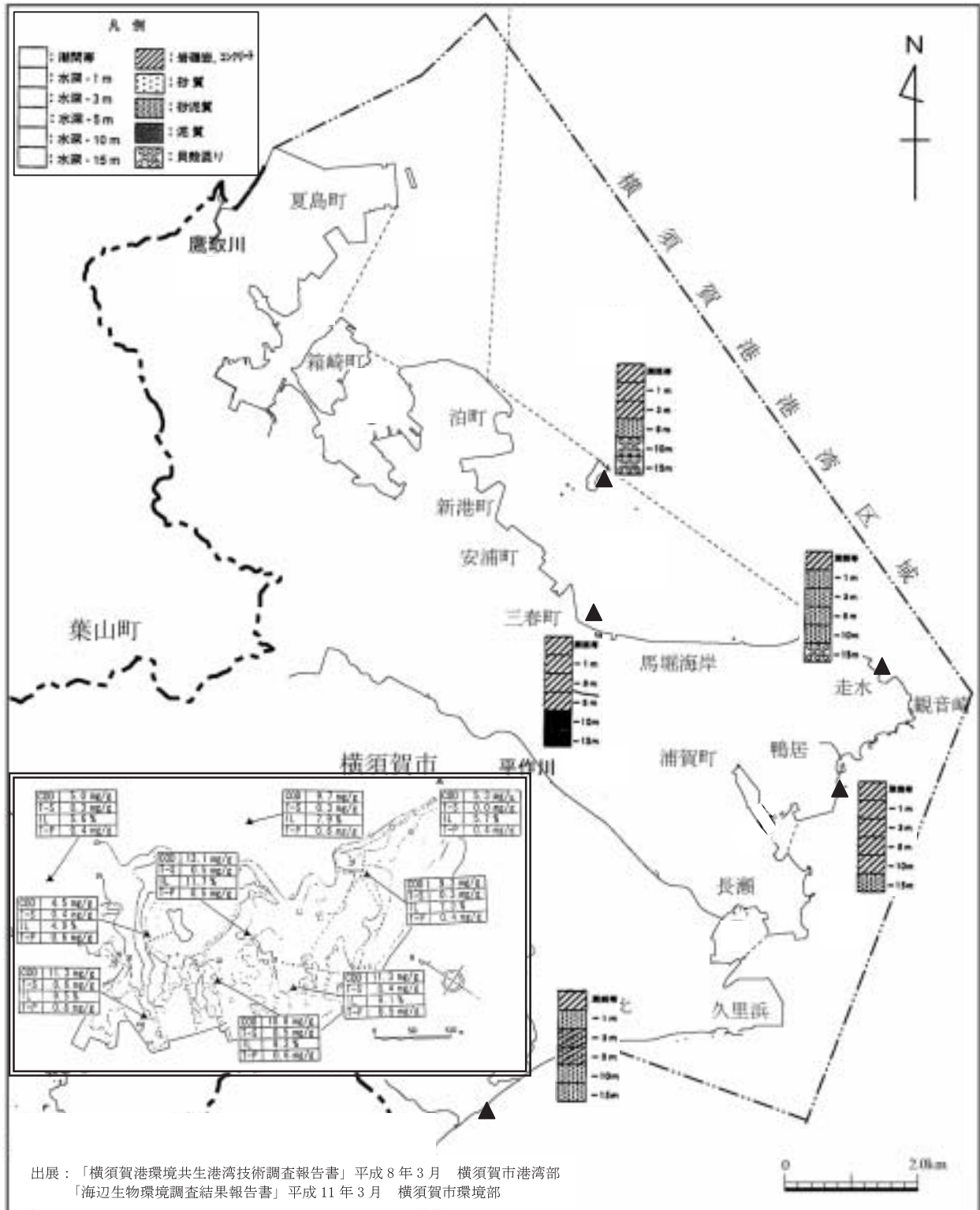


## イ. 底質

横須賀港周辺における底質の性状を以下に示す。

大津湾周辺は猿島や埋立地などの存在により、複雑な地形を呈している。平成町から大津町の前面には海底の窪地が点在する。また、流れの速い観音崎周辺の海底は、岩礁や粒径の大きい砂礫状の底質となっている。

湾奥からの影響を受けやすい北方面や海底窪地、閉鎖的な入江など一部には有機汚濁がやや進んだことが想定される場所が見られ、改善の必要があると考えられる。



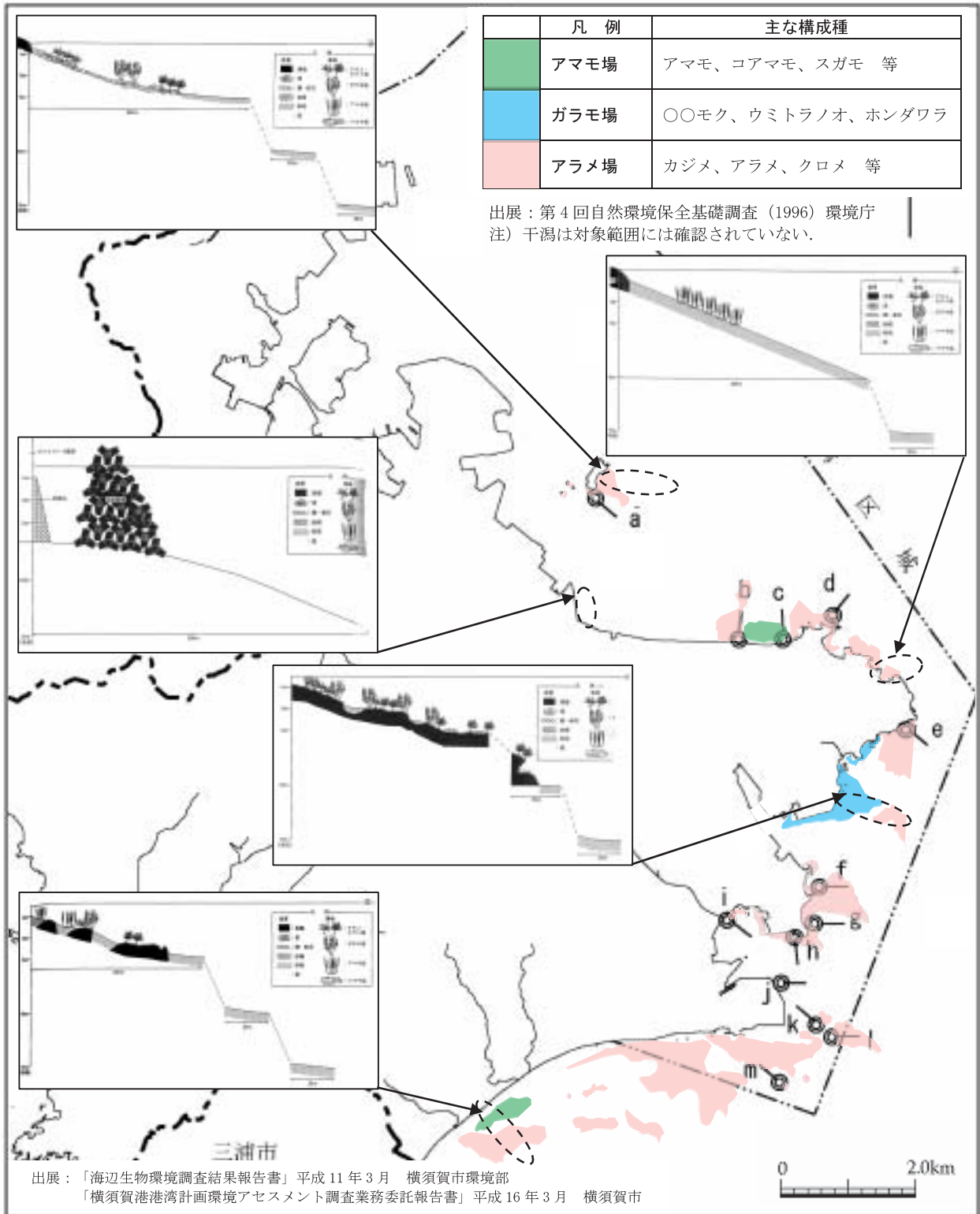
横須賀港における底質環境の概要

## ウ. 海生生物

横須賀港周辺における海生生物の生息状況の概要を以下に示す。

流れの速い水域には八方サンゴ（造礁性ではないサンゴ）もみられる。

藻場の分布は、猿島を除くと東京湾湾口側に多く、随所に点在しており、良好な生物生息環境となっている。港湾区域における干潟の分布はない。



横須賀港における海生生物の概要

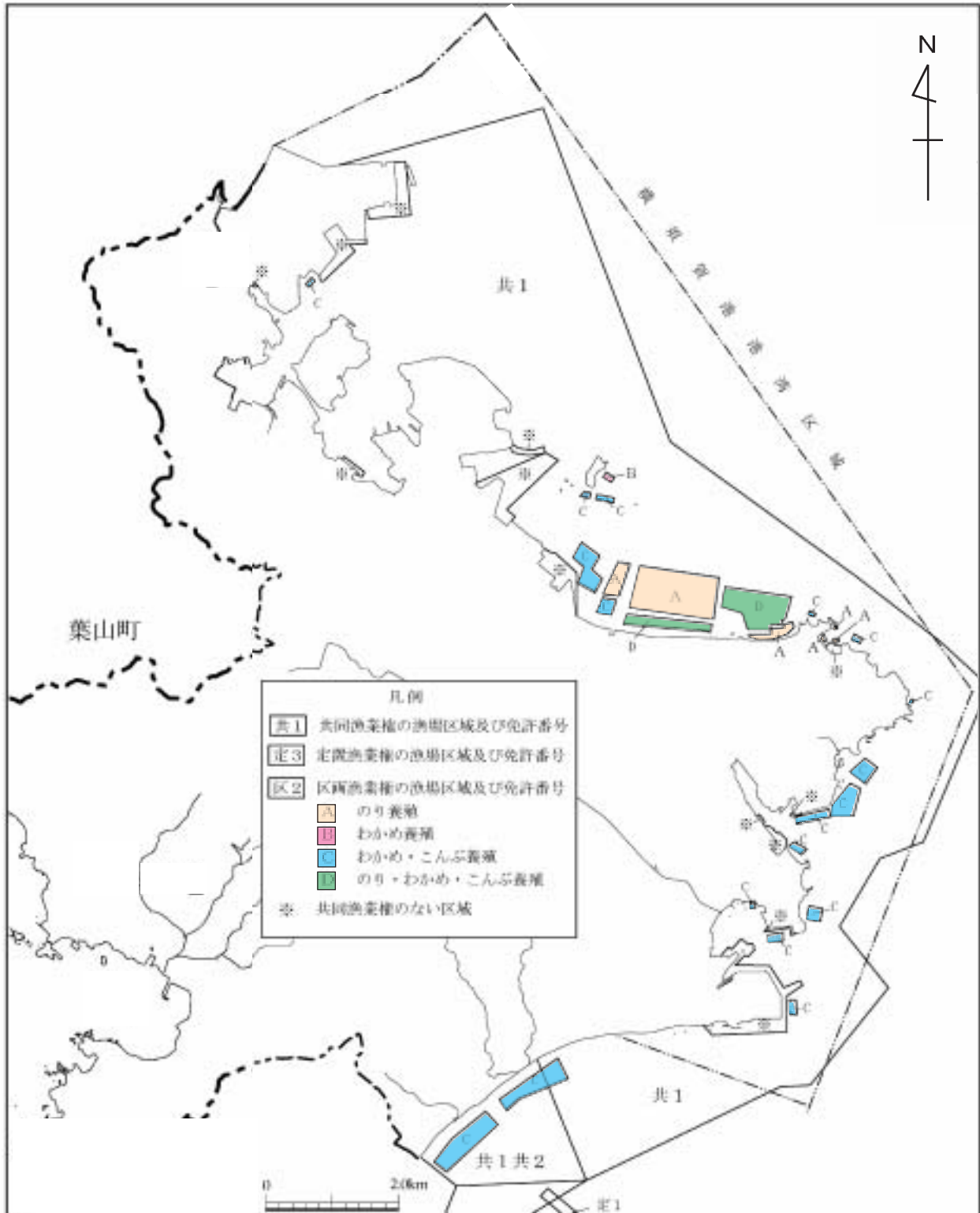
藻場調査結果（平成15年5月）

側線 番号	場所	概要	底質	主要海草藻類（最大被度）
a	猿島	猿島南東側に岸から設定	転石 （人頭大）	アナアオサ(10%) アラメ(10%) アカモク(<5%)
b	走水海岸	海岸西寄り	岩盤（覆砂）	マクサ(20%) アナアオサ(15%) アラメ(10%)
c	同上	海岸東寄り	砂泥	アマモ(40%) コアマモ(30%) アナアオサ(10%)
d	同上	小学校下（漁協裏）に岸から設定	岩礁	アナアオサ(30%) アオノリ属(10%) アラメ(10%)
e	タタラ浜	博物館下に岸から設定	岩礁（覆砂）	アマモ(30%) タチアマモ(15%) オオバモク(10%)
f	灯明堂	灯明堂下北寄りに岸から設定	岩礁	アラメ(50%) アカモク(50%) イソモク(30%)
g	同上	灯明堂下南寄りに岸から設定	岩礁～砂泥	アナアオサ(50%) アマモ(30%) アラメ(20%)
h	研究所下	防衛庁第5研究所下	転石 （人頭大）	カジメ(80%) アカモク(50%) マクサ(40%)
i	港研横	港研横に岸から設定	転石 （人頭大）	アラメ(80%) マクサ(50%) アオサ属(30%)
j	発電所	発電所下	砂泥	無節サンゴモ(20%) マクサ(<5%) アラメ(<5%) ハイミル(<5%)
k	アシカ島	北西側に設定	岩礁	カジメ(40%) アラメ(30%) ハイミル(10%)
l	同上	東側に設定	岩礁	ハイミル(<5%) カジメ(<5%) 無節サンゴモ(<5%)
m	カンダイ根	発電所南側の根	岩礁	無節サンゴモ(5%) ハイミル(<5%)

資料：横須賀港湾計画環境アセスメント調査業務委託報告書 平成16年3月

エ. 沿岸利用（漁業権区域）

海域において沿岸漁業が行われており、共同漁業権区域や海藻栽培等を行う区画漁業権区域が設定されている。



資料：漁業権連絡図（5葉1組の1）平成15年9月1日現在

横須賀港における漁業権設置状況の概要

## オ. 土地利用

海岸部は入り組んだ地形により、静穏な入江が形成されており、天然の良港となっている。

一方、深浦地区、長浦地区、浦賀地区、久里浜地区では多くの放置艇がみられ、対策が望まれている。

沿岸部の多くは埋立地となっており、追浜地区から本港地区にかけては工業用地や防衛施設として利用されており、新港地区から馬堀地区にかけては商業、住宅地が形成されている。一方、走水から野比にかけては、走水、観音崎、久里浜、野比において岩礁や砂浜など比較的多くの自然が残されており、走水以南や猿島には自然植生が多く分布している。

内陸部は平地が少なく、標高 100～200m内外の起伏の多い丘陵及び山地から形成されており、山間丘陵の間を縫って河川や低地が広がっている。主要河川（2級河川、普通河川）は南部に多い。市街地は山間丘陵の間または低地の沿岸部に形成されており、沿岸部に人口が集積している。

## カ. 観光レクリエーション資源・施設

ヴェルニー公園、三笠公園、猿島の要塞跡、観音崎灯台、浦賀ドック、燈明堂、ペリー公園など、重要な歴史資産が点在しているとともに、貝山緑地、猿島、観音崎公園、久里浜緑地などの自然も比較的多く残されており、憩いや散策などの場としても利用されている。

海岸部には、海辺つり公園、うみかぜ公園、猿島海水浴場、走水海水浴場、観音崎の遊歩道、展望台、観音崎自然博物館、浦賀の渡船、浦賀湾のマリーナなど、海の自然を体験することのできる施設が整備されており、ヴェルニー公園、うみかぜ公園、猿島、馬堀海岸、走水海岸、観音崎、燈明堂、浦賀湾、久里浜海岸、野比などは、重要な景観の眺望点および視対象となっている。また、横須賀市には斜面緑地が多く形成されているため、海域から陸域を見ると緑豊かな景観として認識される。

## キ. パブリックアクセス

横須賀港におけるパブリックアクセスの状況を把握するにあたり、横須賀港内における水際線を踏査し、情報収集・写真の撮影、整理を行うとともに、水際線の性状及びパブリックアクセスレベルについて整理したものを次頁以降に示す。なお、この結果の考察について以下に述べる。

### ○水際線性状について

横須賀港は、工業地や防衛施設等の埋立地が多く、全体の71%が人工海岸であり、自然海岸・半自然海岸は29%である。特に馬堀地区から北側の地区では、猿島を除きほとんどが人工海岸である。また、自然海岸・半自然海岸については、干潟がほとんどなく、水際線の形状は、砂浜、磯場、護岸によって大部分が形成されている。

### ○パブリックアクセスレベルについて

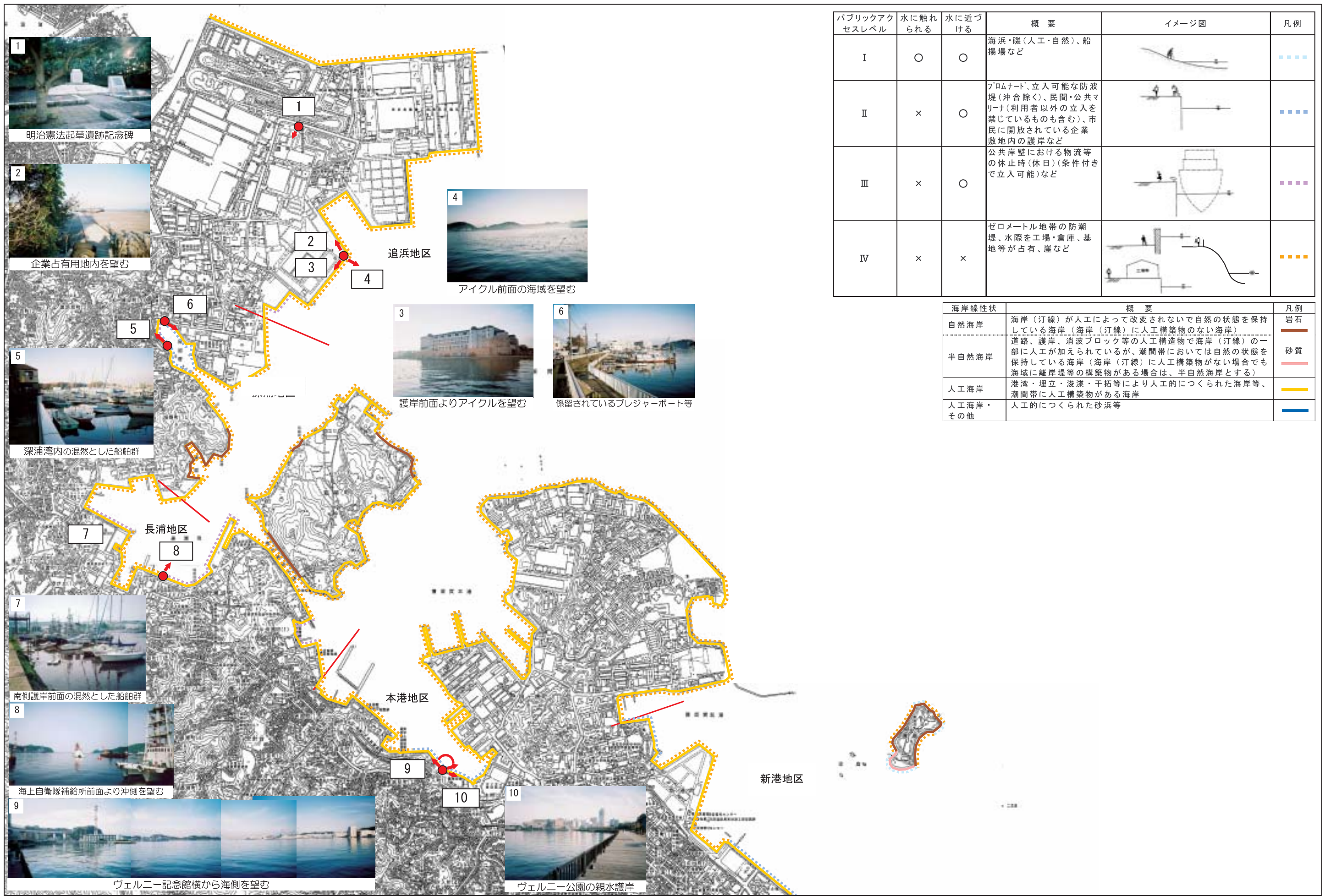
横須賀港北部（追浜地区から本港地区にかけて）は、工業地や防衛施設が立地しており、一部に整備されている公園等を除き、ほとんどの水際線において海岸部へのアクセスが困難となっている。

横須賀市中・南部（新港地区から野比地区）は、一部港湾施設や崖、ドック、火力発電所等によりアクセスができない箇所もみられるが、砂浜など水に触れることのできる水際線も比較的多くみられる。

海岸線性状及びパブリックアクセスレベルの状況

地区	水際延長 (m)	海岸線性状(m)				パブリックアクセスレベル(m)				有望な眺望点
		自然 海岸	半自然 海岸	人工 海岸	その他	I	II	III	IV	
追浜地区	5,600			5,600				200	5,400	
深浦地区	2,200	600		1,600			500	100	1,600	
長浦地区	11,200	1,100	4,300	5,800				1,900	9,300	
本港地区	13,100			13,100			800		12,300	ヴェルニー 公園
新港地区	1,600	500	100	1,000		200	300		1,100	猿島、 うみかぜ公園
平成地区	2,800			2,800			1,200		1,600	
大津地区	800			800			800			
馬堀地区	1,600			1,600			1,600			馬堀海岸
走水地区	2,800	700	1,200	900		1,800		200	800	走水海岸
鴨居地区	5,900	2,100	1,300	2,500		3,800	500	1,200	400	観音崎
浦賀地区	5,100	500	400	4,200		1,300	100	1,200	2,500	燈明堂、 浦賀湾
久里浜地区	6,800	200	500	6,100		1,100		300	5,400	久里浜海岸
野比から 津久井浜周辺	5,300		5,300			5,100			200	野比
合計(m)	64,800	5,700	13,100	46,000		13,300	5,800	5,100	40,600	
割合(%)	100%	9%	20%	71%	0%	20%	9%	8%	63%	

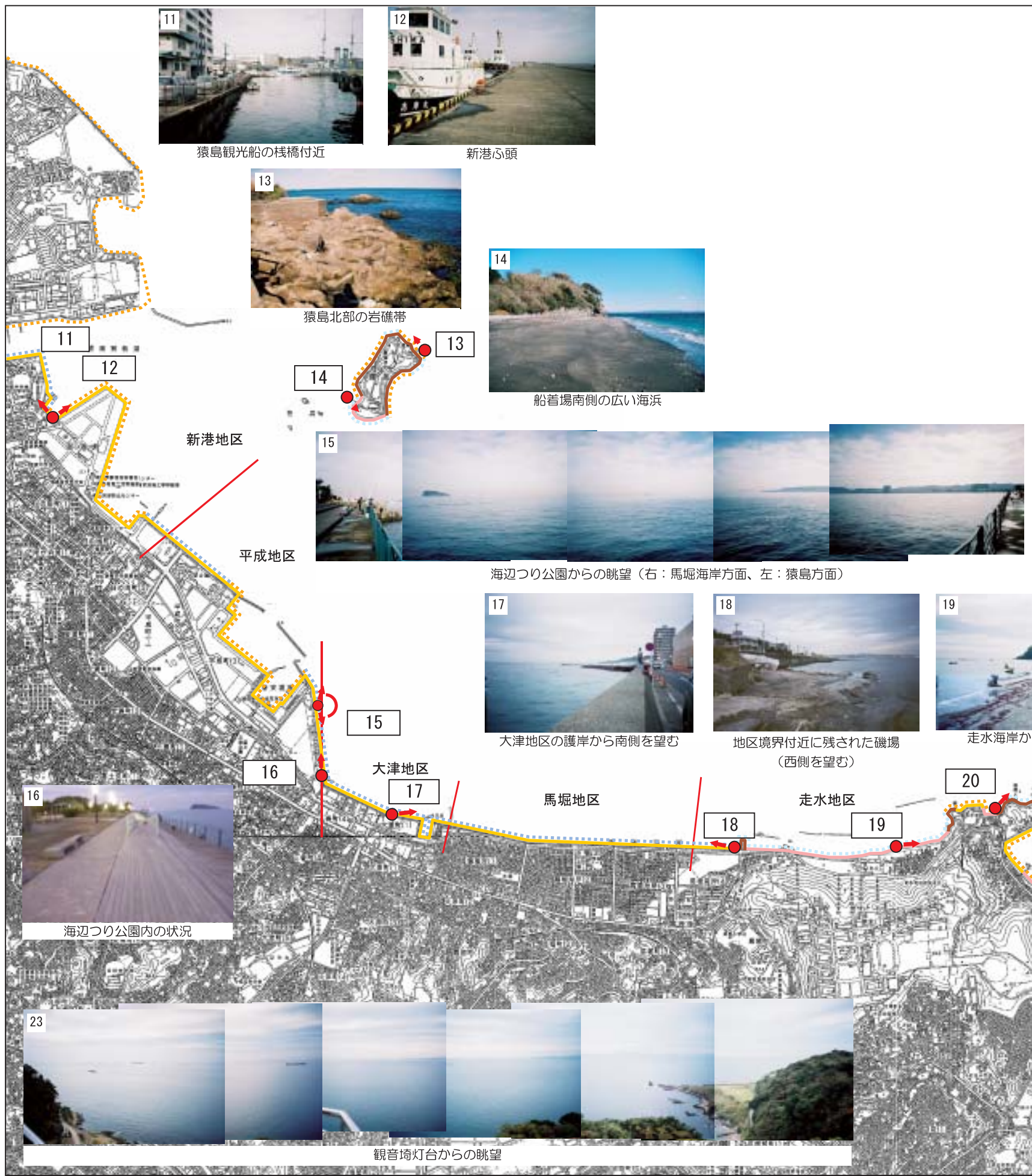
※：表中の各延長は、既往の資料及び図上から算出したもので概数である。



パブリックアクセスレベル	水に触れられる	水に近づける	概要	イメージ図	凡例
I	○	○	海浜・磯(人工・自然)、船揚場など		.....
II	×	○	プロムナード、立入可能な防波堤(沖合除く)、民間・公共マリーナ(利用者以外の立入を禁じているものも含む)、市民に開放されている企業敷地内の護岸など		.....
III	×	○	公共岸壁における物流等の休止時(休日)(条件付きで立入可能)など		.....
IV	×	×	ゼロメートル地帯の防潮堤、水際を工場・倉庫、基地等が占有、崖など		.....

海岸線性状	概要	凡例
自然海岸	海岸(汀線)が人工によって改変されないで自然の状態を保持している海岸(海岸(汀線)に人工構築物のない海岸)	岩石 砂質
半自然海岸	道路、護岸、消波ブロック等の人工構築物で海岸(汀線)の一部に人工が加えられているが、潮間帯においては自然の状態を保持している海岸(海岸(汀線)に人工構築物がない場合でも海域に離岸堤等の構築物がある場合は、半自然海岸とする)	砂質
人工海岸	港湾・埋立・浚渫・干拓等により人工的につくられた海岸等、潮間帯に人工構築物がある海岸	砂質
人工海岸・その他	人工的につくられた砂浜等	砂質

現況写真及び水際線性状、パブリックアクセスレベル (1)



パブリックアクセスレベル	水に触れられる	水に近づける	概要	イメージ図	凡例
I	○	○	海浜・磯(人工・自然)、船揚場など		.....
II	×	○	プロムナード、立入可能な防波堤(沖合除く)、民間・公共マリーナ(利用者以外の立入を禁じているものも含む)、市民に開放されている企業敷地内の護岸など		.....
III	×	○	公共岸壁における物流等の休止時(休日)(条件付きで立入可能)など		.....
IV	×	×	ゼロメートル地帯の防潮堤、水際を工場・倉庫、基地等が占有、崖など		.....

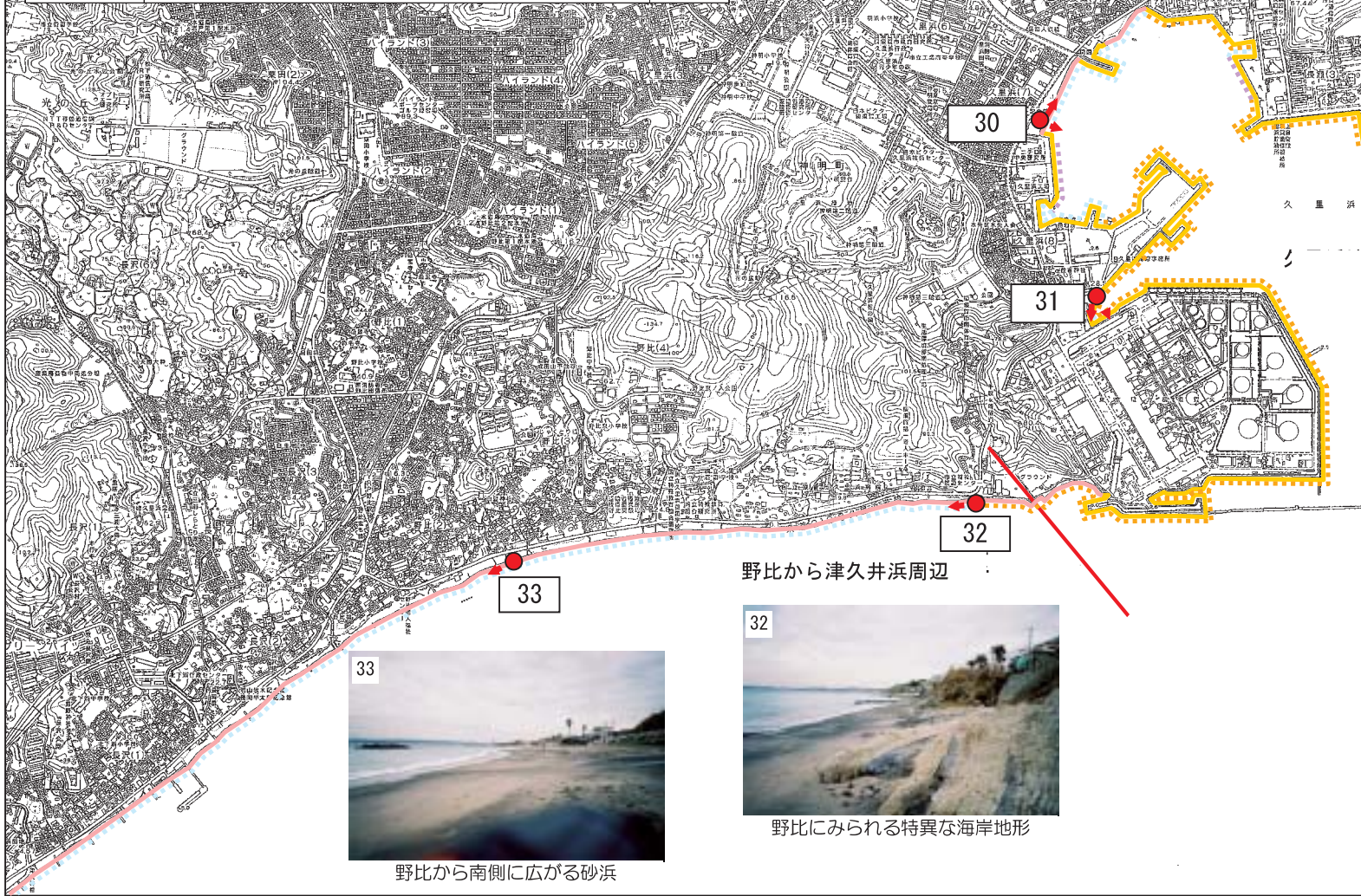
海岸線性状	概要	凡例
自然海岸	海岸(汀線)が人工によって改変されないで自然の状態を保持している海岸(海岸(汀線)に人工構築物のない海岸)	岩石 砂質
半自然海岸	道路、護岸、消波ブロック等の人工構築物で海岸(汀線)の一部に人工が加えられているが、潮間帯においては自然の状態を保持している海岸(海岸(汀線)に人工構築物がない場合でも海域に離岸堤等の構築物がある場合は、半自然海岸とする)	
人工海岸	港湾・埋立・浚渫・干拓等により人工的につくられた海岸等、潮間帯に人工構築物がある海岸	
人工海岸・その他	人工的につくられた砂浜等	

現況写真及び水際線性状、パブリックアクセスレベル (2)

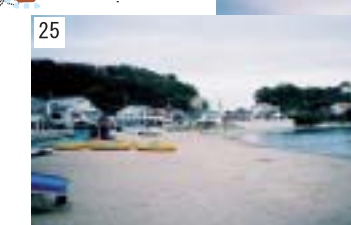


パブリックアクセスレベル	水に触れられる	水に近づける	概要	イメージ図	凡例
I	○	○	海浜・磯(人工・自然)、船揚場など		
II	×	○	プロムナード、立入可能な防波堤(沖合除く)、民間・公共マリーナ(利用者以外の立入を禁じているものも含む)、市民に開放されている企業敷地内の護岸など		
III	×	○	公共岸壁における物流等の休止時(休日)(条件付きで立入可能)など		
IV	×	×	ゼロメートル地帯の防潮堤、水際を工場・倉庫、基地等が占有、崖など		

海岸線性状	概要	凡例
自然海岸	海岸(汀線)が人工によって改変されないので自然の状態を保持している海岸(海岸(汀線)に人工構築物のない海岸)	岩石
半自然海岸	道路、護岸、消波ブロック等の人工構築物で海岸(汀線)の一部に人工が加えられているが、潮間帯においては自然の状態を保持している海岸(海岸(汀線)に人工構築物がない場合でも海域に離岸堤等の構築物がある場合は、半自然海岸とする)	砂質
人工海岸	港湾・埋立・浚渫・干拓等により人工的につくられた海岸等、潮間帯に人工構築物がある海岸	
人工海岸・その他	人工的につくられた砂浜等	



たたら浜



鴨居地区の砂浜



マリナポートコーチャ



かもめ団地前面の遊歩道



浦賀みなと緑地



燈明堂北側の状況



平作川河口に位置する久里浜海岸



横須賀火力発電所北側の砂浜



野比から南側に広がる砂浜



野比にみられる特異な海岸地形

野比から津久井浜周辺

現況写真及び水際線性状、パブリックアクセスレベル (3)

### (3) 地域別の環境特性

横須賀港内の各地区毎の環境特性を示すに当たり、「自然環境面」「水際線利用面」「景観面」「歴史資産面」「地域環境面（大気質、騒音）」の5つの視点で整理し、レーダーチャート化したものを以下に示す。なお、横須賀港の沿岸を500mのメッシュに区切り、詳細な情報を整理した上で、地区に含まれるメッシュの評点を平均して地区の評点とした。

このレーダーチャートは、各地区毎の環境特性（地区の個性）を表しているもので、面積が広いと自然環境が良好であることを示し、面積が狭いと産業空間として活用されていることを示す。

なお、ここで整理している特性は平成14年度に実施した調査を基に作成している。

#### 自然環境面の評価基準

凡 例	
6.0	沿岸域に自然環境が広く現存し、水質、底質が良好
4.5	沿岸域の一部に生物に適した環境がある または、生物生息に適した環境が比較的多くあるが、水質、底質が不良
3.0	生物生息に適した環境が少ないが、水質、底質は比較的良好
1.5	生物生息に適した環境がなく、水質、底質が不良

#### 水際線利用面の評価基準

凡 例		
6.0	自然が残されている地区	自然環境を保全していく
5.0		自然環境を今後積極的に利用していく
4.0	住宅地、商業地等が形成されている地区	パブリックアクセスが確保されており、今後その維持拡大を図っていく
3.0		パブリックアクセスが確保されておらず、今後積極的にその整備を図っていく
2.0	企業等が立地する地区	今後積極的に開放を図っていく
1.0		立入が規制されており、今後も立入を規制する

#### 港湾景観面の評価基準

凡 例		
6.0	自然空間としての景観を有している地区	良好な景観が形成されており、その保護、保全を図っていく
5.0		良好な景観を積極的に利用しつつ、保護、保全を図っていく
4.0	生活空間としての景観を有している地区	良好な景観が形成されており、その維持拡大を図っていく
3.0		景観を阻害する要素がみられ、その改善を図っていく
2.0	産業空間としての景観を有している地区	良好な景観が形成されており、その維持拡大を図っていく
1.0		景観を阻害する要素がみられ、その改善を図っていく

#### 歴史資産面の評価基準

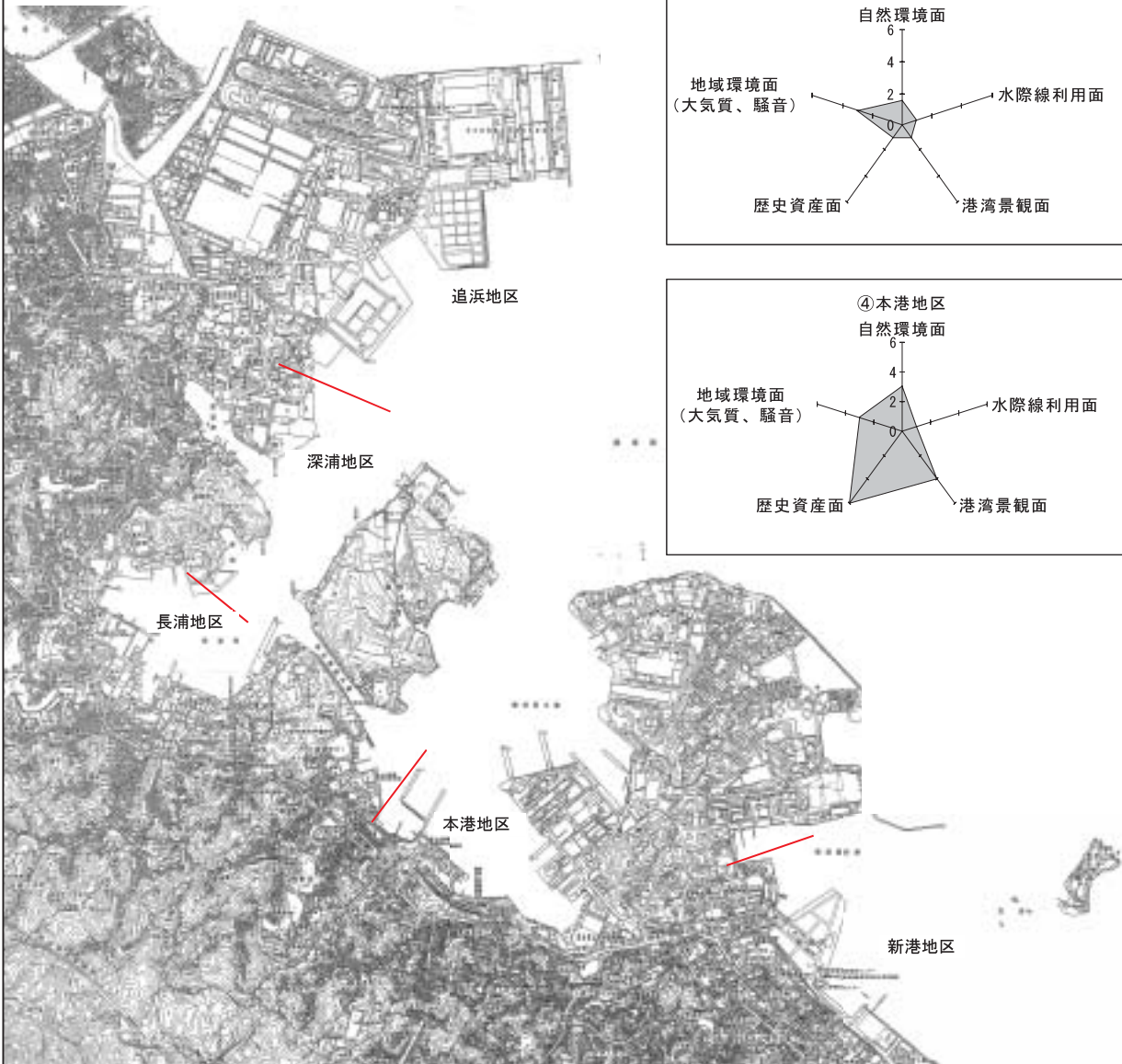
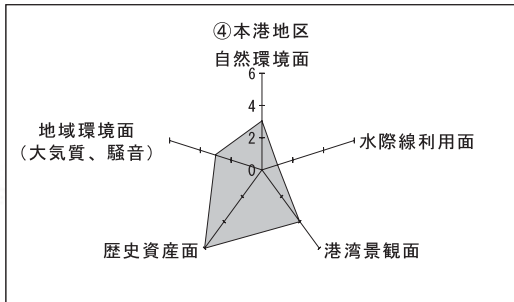
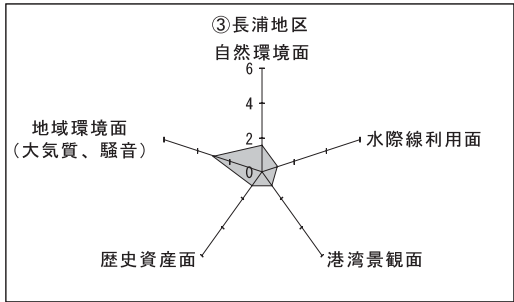
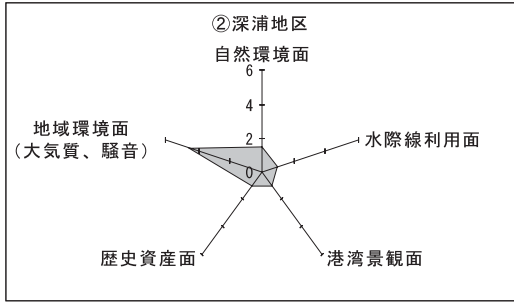
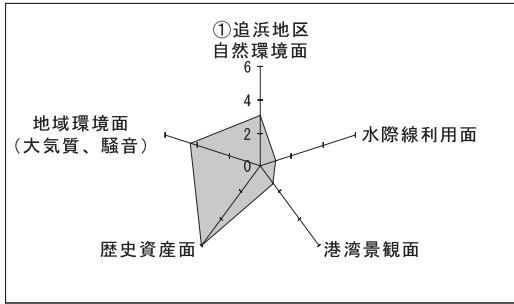
凡 例	
6.0	重要な歴史資産を有している
1.5	重要な歴史資産を有していない

#### 地域環境面（大気質、騒音）の評価基準

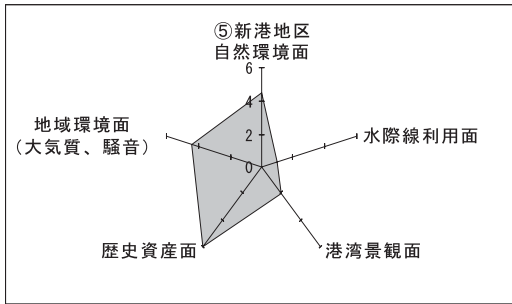
凡 例	
6.0	沿岸域及び背後に大気、騒音に対して負荷を与える工場、事業場、主要幹線などがない
4.5	工場、事業場等はあるが、交通量の多い主要幹線がない
3.0	工場、事業場が沿岸域に少ないまたは無いが、交通量の多い主要幹線が沿岸域にある
1.5	交通量の多い主要幹線があり、工場、事業場などの負荷源もある

地区別の環境特性（１）  
（追浜地区～本港地区）

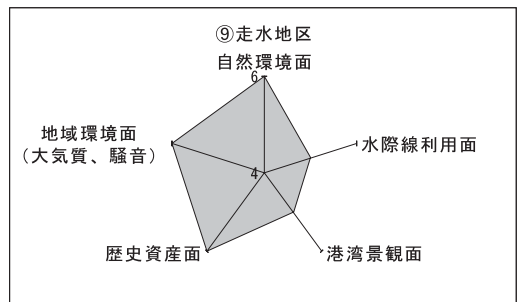
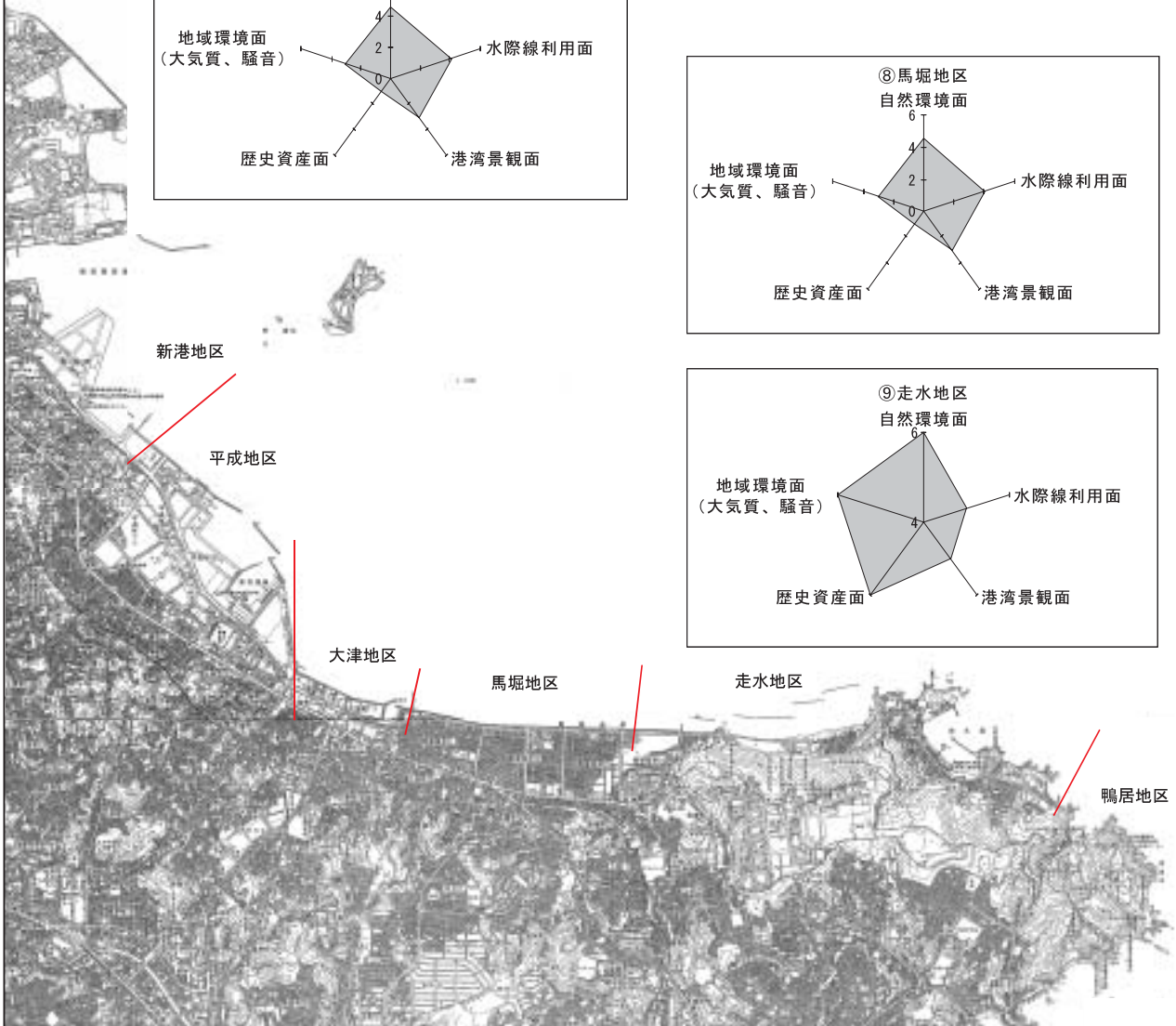
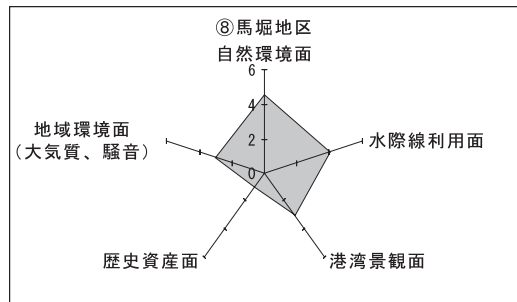
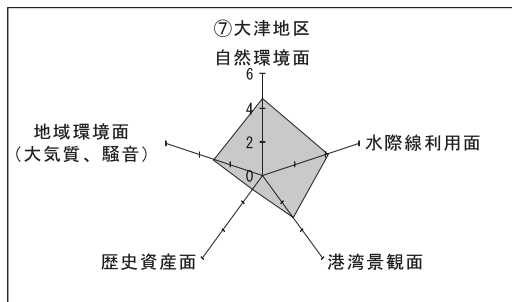
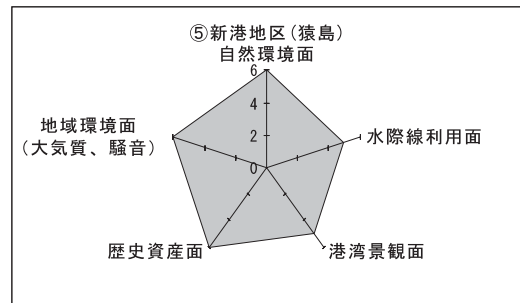
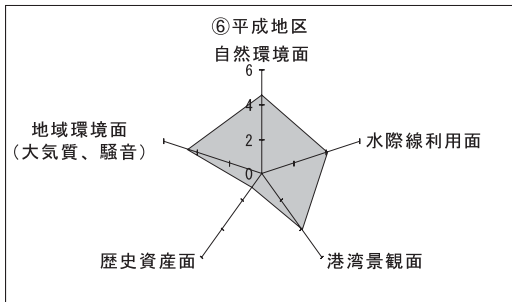
横須賀市の産業が集まっており、工業的な景観の地区が多い。水際線は一般市民が近寄れない地区であるが、ヴェルニー公園など人が水に近づける場所も一部にある。



## 地区別の環境特性（2） （新港地区～走水地区）



横須賀市の中心市街地周辺であり、主要交通機関・道路などが沿岸域に集まっている。一方、背後には緑豊かな山地や自然島である猿島があり、主要幹線沿いは住宅としても活用されている。



地区別の環境特性（3）  
（鴨居地区～野比から津久井浜周辺）

横須賀市の中でも、主要交通機関・道路などが沿岸域に集まっている一方で、浦賀、久里浜などの港湾施設と豊かな景観が共存しており、砂浜も広がっている。

